

令和 4 年度全国学力・学習状況調査の目的や実施内容

本調査は、文部科学省が学校の設置者（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

- 調査の目的
- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
 - ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学・理科）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

時間割

◎小学校（児童質問紙は、2 時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語（45 分）	算数（45 分）	理科（45 分）	児童質問紙（20～40分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、2 時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

1 時限目	2 時限目	3 時限目	
国語（50 分）	数学（50 分）	理科（50 分）	生徒質問紙（20～45 分程度）

令和4年度全国学力・学習状況調査学力結果

※ 全国平均正答率等との比較

【小学校】

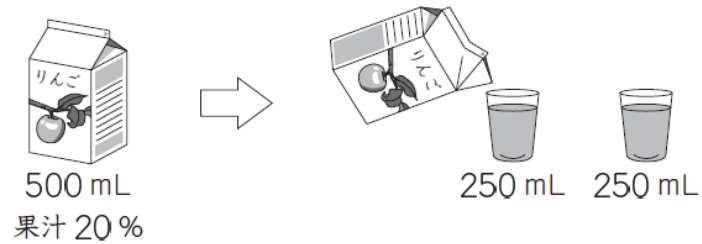
	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	高い	〔話すこと・聞くこと〕 話合いの中の発言の意図理解	〔読むこと〕 情景と心情の関係理解
算数	やや高い	〔変化と関係〕 伴って変わる2つの数量が 比例関係の理解	〔変化と関係〕 飲み物と果汁の量の割合の理解
理科	やや高い	〔エネルギー〕 光の性質	〔生命〕 こん虫のからだのつくり

【中学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	やや低い	〔言葉の使い方や特徴〕 ・漢字の書き取り ・行書（書写）の特徴	「書くこと」 自分の考えを分かりやすく書いたり、文章から必要な部分を引用してまとまりのある文章を書いたりすること
数学	やや低い	〔数と式〕 目的に応じた式の変形とその意味の読み取り	「数と式」 基本的な計算と数学用語の理解
理科	やや低い	〔地球〕 気圧・気温・湿度の変化の読み取り	〔エネルギー〕 モデル実験における変える条件と変えない条件を制御した実験計画

■ 課題となる問題「変化と関係」(小学校算数)

- (3) りんごの果汁が 20 %ふくまれている飲み物が 500 mL あります。
この飲み物を 2 人で等しく分けると、1 人分は 250 mL になります。



250 mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mL は、500 mL の $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

ア

上のアにあてはまる文を、下の **1** から **3** までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1** 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2** 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は 2 倍になります。
- 3** 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

■ 課題となる問題「一次関数」(中学校数学)

- 4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

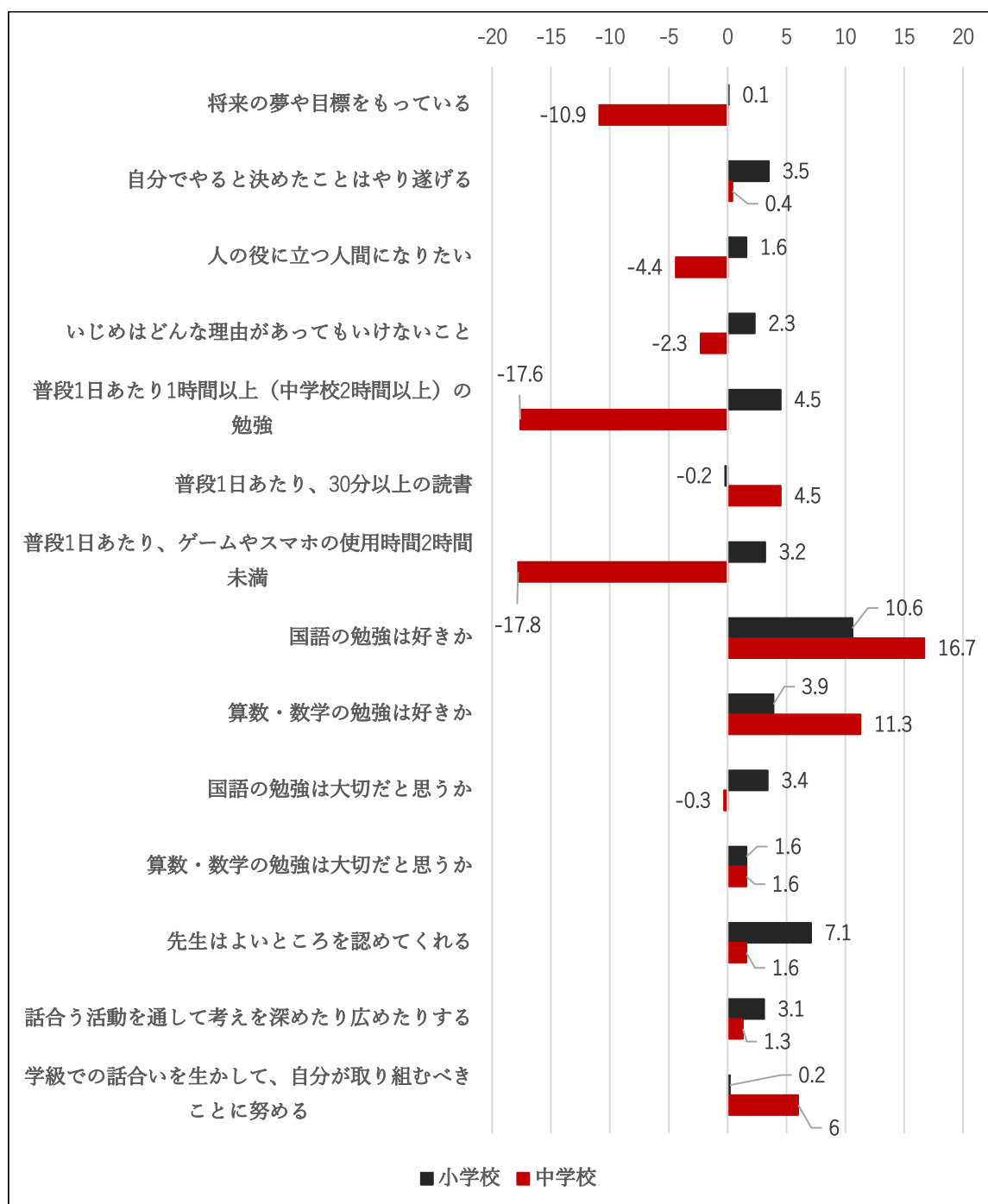
エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

令和4年度全国学力・学習状況調査質問紙全国平均との比較

※ 全国平均を0として全国の平均パーセントとの差を提示

※ 質問紙69項目程度の中から抜粋



児童生徒質問紙の結果から、「自分自身に関すること」においては、全国とほぼ同じか、高い項目が多く、「粘り強く物事に取り組んだり、社会に貢献したりする」姿勢や態度が育っていることが伺えます。学校生活では、学級の友達と教師との人間関係も良好で、教師はより児童生徒理解に努め、児童生徒は学級をよりよくするために主体的に物事に取り組んでいることが分かります。国語や算数・数学の授業は好きで熱心に取り組むとともに、この学習が社会に役立つという認識を持っています。

しかし、中学校になると「スマホやゲームにあてる時間」が多くなり、家庭学習時間が少なくなってきました。

「スマホやゲームにあてる時間」を少なくし、自分が望む進路の実現のため、主体的に家庭学習に取り組む習慣を確立することが大切だと考えます。

これからの取組

児童生徒質問紙の結果は、小学校、中学校とも概ね全国平均と同じか上回っています。問題の正答率は、小学校は全て全国より上回っています。中学校では、正答率は全国よりやや低いので、授業で学習したことを定着させるための家庭学習時間の確保が必要となってきます。

今まで取り組んで成果があった次の２点は継続して取り組みます。
その２点に③の「家庭学習の充実」を加え、学力の向上を図ります。

- ① 小学校と中学校とで補充学習の実施や学習指導の統一化を図り、
また、効果的な ICT 活用の事例研修等を行う
- ② 学力を向上させる基盤となる児童生徒の健全な育成を図る学級活動や道徳及び学校行事の質を高め、児童生徒間、児童生徒と担任との良好な人間関係を築く
- ③ 学校からの毎日の適度な課題の提示と家庭学習の習慣化を図る学校と保護者との連携を図る

今後も、児童生徒の自己実現に向けて、今までの取組を継続・徹底していきます。